

3月11日の東日本大震災から半年となりますが、9月には台風12号・15号による豪雨で、全国各地に大きな被害をもたらしました。今年も、抗いようもない自然の脅威のすさまじさを思い知らされる出来事が相次いでいます。

皆が一丸となって震災復興、原発事故の收拾に当たるべきときに、自分の保身のことでか頭になく復興の遅れと原発事故の拡大を招いた前総理、破綻しているはずのマニフェストにこだわる民主党、そして批判ばかりで全く影が薄くなった野党と、なんとも情けない状況でした。

新たに野田政権が誕生しましたが、前政権の失態を挽回してくれるのか、震災復興のための財源捻出の問題、超円高による影響、税と社会保障の一体改革など山積する課題解決に向け、どれほどの働きをしてくれるのか見守るしかない状況にあります。

この震災関係の影響は、今後柳川市をはじめ地方財政へ大きな影響が及ぶことも予想されます。それ以前に、柳川市は国からの財政支援期間10年間で、行財政改革、まちづくりを執行しなくてはなりません。残り3年半、待ったなしの状況です。まず自らが何をしなくてはならないのか、何が出来るのか、それを残り3年半でどれだけ果たしていくことが出来るのかが重要であります。

このたび、柳川市9月定例議会が開催され、平成22年度予算の決算をはじめ12の議案が審議されました。その内容、市の状況など併せてご報告いたします。



柳川市議会議員  
佐々木創主

## 佐々木創主議会報告（33号）

平成23年第3回定例議会 会期：9月6日～9月28日

### ○平成22年度各会計の決算が認定されました

平成22年度の一般会計と国民健康保険、老人保健、後期高齢者医療、下水道事業、住宅新築資金、公共用地先行取得の6つの特別会計、および水道事業会計の決算が、それぞれ所管の委員会で審査され、最終日の本会議で採決され認定されました。

#### 平成22年度各会計決算の状況

(単位千円)

			歳入総額	歳出総額	差引額	翌年度へ繰越	実質収支	負債残高
一般会計			32,027,335	31,052,899	974,436	138,444	835,992	33,198,227
特別会計	国民健康保険特別会計		9,556,640	9,547,733	8,907	0	8,907	
	老人保健特別会計		4,804	4,804	0	0	0	
	後期高齢者医療特別会計		809,753	807,241	2,512	0	2,512	
	住宅新築資金等特別会計		5,645	2,505	3,140	0	3,140	6,140
	公共用地先行取得特別会計		0	0	0		0	
	下水道事業特別会計		1,034,509	941,835	92,674	0	92,674	8,195,187
合計			43,438,686	42,357,017	1,081,669	138,444	943,225	41,399,554
企業会計	水道事業会計	収益的収支	1,319,481	1,145,397	174,084			4,486,156
		資本的収支	204,306	556,261	-351,955			

#### ◇一般会計決算

一般会計決算は、私が委員長を務めます総務委員会（8名）とその他委員会から2名ずつで構成される決算審査特別委員会（14名）が組織され、私が委員長となって審査を行いました。

まず、決算の総額から見てみますと、歳入総額320億2733万5000円、歳出総額310億5289万9000円で、差し引き9億7443万6千円となり、翌年度への繰越（1億2844万4千円）を除いた実質収支は8億3599万2

千円の黒字決算となっています。

下の表のように平成21年度と比較して約29億円増加している主な要因は、筑後川下流土地改良事業の市債(借金)の一括償還19億円4千万円、城内小学校の校舎・プール改築3億9千万円、小中学校校舎の耐震補強工事2億4千万円などによるものです。

**歳入**

まず市税のうち、市民税が景気低迷の影響で1億6千万ほどの減、固定資産税が金子市長のマニフェストにより税率を1.4%に統一したことにより1億8千万円ほど減少しました。

地方交付税は、景気低迷による地方自治体の税収不足を補うため増額されています。市債も筑後川下流土地改良事業の一括償還分などにより大幅に増加しています。

**歳出**

人件費は、昨年10月から議員の数が30名から24名となったことと、職員の数が7名減少(採用5名、退職13名、派遣1名)により8千万円減少しています。

扶助費は、こども手当での支給開始により増加しています。

公債費(借金の返済費)は、平成17年度以降活用してきた合併特例債の返済が始まったため増加しています。

補助費は、筑後川下流域土地改良事業の一括償還により増加しています。

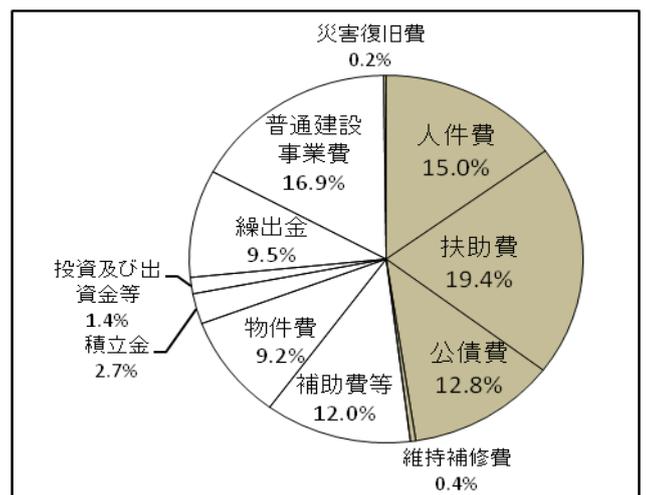
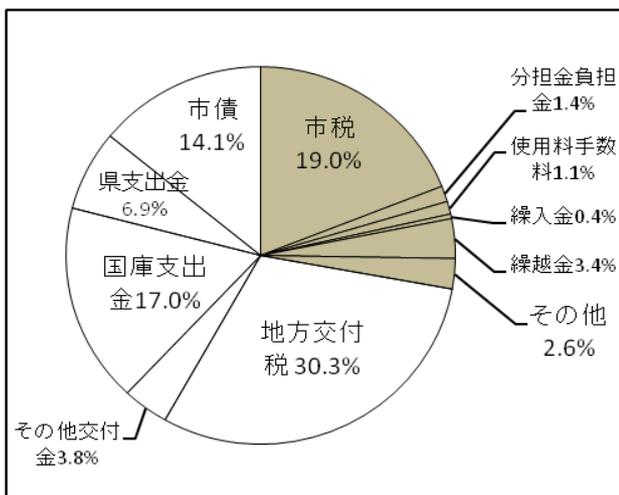
積立金は、黒字決算額の財政調整基金への積み立てにより増加しています。

繰り出し金は、国民健康保険、介護保険、後期高齢者医療への繰り出しが増えたため増加しています。

普通建設事業費は、城内小学校改築、小中学校校舎耐震補強、中山団地建設などにより増加しています。

		歳入			増減
		平成22年度		平成21年度	
		決算額	構成	決算額	
自主財源	市税	6,093,845	19.0%	6,425,169	-331,324
	分担金及び負担金	432,576	1.4%	422,523	10,053
	使用料及び手数料	348,453	1.1%	350,631	-2,178
	繰入金	127,673	0.4%	279,313	-151,640
	繰越金	1,083,319	3.4%	426,846	656,473
	その他	833,135	2.6%	853,592	-20,457
依存財源	地方交付税	9,713,001	30.3%	9,163,489	549,512
	その他交付金	1,228,837	3.8%	1,253,606	-24,769
	国庫支出金	5,457,153	17.0%	5,567,268	-110,115
	県支出金	2,197,029	6.9%	2,332,443	-135,414
	市債	4,512,314	14.1%	2,080,096	2,432,218
合計		32,027,335		29,154,976	2,872,359

		歳出			増減
		平成22年度		平成21年度	
		決算額	構成	決算額	
義務費	人件費	4,649,042	15.0%	4,729,955	-80,913
	扶助費	6,319,766	20.4%	5,448,684	871,082
	公債費	3,808,705	12.3%	3,592,221	216,484
任意経費	維持補修費	135,578	0.4%	142,579	-7,001
	補助費等	3,740,324	12.0%	3,010,982	729,342
	物件費	2,860,568	9.2%	2,852,513	8,055
	積立金	829,770	2.7%	372,864	456,906
	投資及び出資金等	447,724	1.4%	440,803	6,921
	繰出金	2,942,216	9.5%	2,782,750	159,466
費	普通建設事業費	5,249,917	16.9%	4,554,806	695,111
	災害復旧費	64,288	0.2%	138,996	-74,708
合計		31,047,898		28,067,153	2,980,745



柳川市の財政構造として、歳入面では上の表・グラフのとおり市の自主財源である市税等の全体に占める割合は27%しかなく、地方交付税、国・県の補助金、市債といった依存財源に頼っている状況です。そのなかで国・県の補助金と市債は何の事業に活用するのか決められており、市が自由に活用できるものではありません。

自主財源である市税は、基幹産である農漁業の低迷、人口減少などの影響から、わずか2割弱となっています。従って、この減少傾向に歯止めをかけ、いかに増加をさせるのが課題であります。市では、市税等の収納の担当課を設置して差し押さえなども行い一定の効果をあげている半面、地域産業の活性化、企業の誘致、就業者人口の増加のための様々な対策を講じてはいますが、まだまだ目に見える効果は上がっていません。

また歳出面では、人件費、扶助費（社会福祉関係費）、公債費（借金の返済金）といった義務費、必ず支出しなければならない費用が全体の47%おおよそ半分を占めています。特に、扶助費は老人福祉、障害者福祉、生活保護などですが、少子高齢化などにより今後さらに増加していくことが予想されます。

この義務費とは一般家庭で言えば、所得税、市民税・国民健康保険税、年金保険料、住宅や自動車のローン返済金、食料費や高熱水費などといったものではないでしょうか。景気低迷の中、皆さんも電気をこまめに消したり、食費を切り詰めたりと、さまざま出費を抑える努力をいらっしやることと思います。

柳川市では、職員の削減や様々な事業の見直しによる経費削減といった行財政改革を実行していますが、合併特例債や地方交付税の加算などの国からの財政優遇策は平成26年度までで終了または減額されていきます。よりいっそうの行財政改革が不可欠です。

#### ◇主な基金（貯金）の状況

単位：千円

名称	H21 末現在高	積立額	H22 活用額		H22 末現在高
財政調整基金	3,782,337	803,260			4,585,597
減債基金	990,262	2,124			992,386
柳川地域振興基金	623,456	1,294			624,750
大和地域振興基金	503,774	954	漁業団地建設事業	5,490	480,838
			大和中用地購入費	18,400	0
三橋地域振興基金	1,418,961	3,575	駅東部区画整理事業	80,000	1,342,536
一般廃棄物処理施設基金	529,877	1,086			530,963
まちづくり振興基金	2,612,191	13,730	北浦道水路整備事業	20,000	2,605,921
ふるさと元気応援基金	5,279	3,747			9,026
合計	10,466,137	829,770		123,890	11,172,017

#### ○平成23年度一般会計補正予算（第3号）が全員賛成で可決しました

今回の補正で、10億7600万8千円が追加され、予算総額が279億3075万7千円となりました。その中で額が大きいものは、市債のなかで利率の高いものを繰り上げて返済する2億5250万5千円です。これによって平成24年度以降の利息が約2000万円軽減されることとなります。

以下、主な内容をご紹介します。

△柳川庁舎の北東にある民有地(744.31㎡)が、4681万円(坪単価20万8千円)で購入され、駐車場として整備されることとなります。

△父子家庭受給者の増加により、児童扶養手当が940万円増額されました。受給者数は当初見込み720件が750件となる見込み。

△化学肥料・農薬を使用しない有機農業の米生産者に1反当たり8千円の支援金が支給されることとなり、今回1軒の農家が支給を受けることとなります。

昨今、食の安全性に関心が高まっており、減農薬、有機栽培の農作物が注目されていますが、このたび国が環境と食の安全に配慮した米作りを進めようと助成制度ができたものです。ただ、関係者によると有機栽培は農

薬を使用しないため、近隣の田への害虫の影響が心配される向きもあるようです。全体で取り組めればいいのですが、三ちゃん農業、兼業農家が多い状況では、なかなか難しい課題です。

△京町商店街のコアマンション1階に商店街が運営する柳川ブランドに認定された商品のアンテナショップが開設されます。出店期間：今年12月1日～平成24年11月19日、運営委託料：1050万円

△三橋地区の矢ヶ部校区のコミュニティセンター建設のための用地が購入されます  
場所は矢ヶ部小学校の隣接地で、土地購入費は2674万1千円(1704.32㎡)ですが、この財源は三橋地域振興基金から出されます。

#### △災害復旧費

今年7月6日～7日にかけての梅雨前線豪雨により被害を受けた農業施設、道路の復旧が行われます。今回の雨量は24時間で131mm(国の基準80mm以上)でした。

- ・農業用施設災害復旧費：1065万6千円  
柳川地区：8カ所、大和地区：2カ所、三橋地区：2カ所
- ・道路施設災害復旧費：2687万円  
柳川地区：2カ所、大和地区：1箇所

△東日本大震災で死亡または行方不明者の消防団員251名に対し補償金が支払われますが、その財源確保のため公務災害補償共済掛け金が1年間に限って引き上げられるため、柳川市からも1648万5千円が支出されます。この支出分は、後で国から補填されるようです。

#### △ピアス跡地の土壌調査が再度行われます

このピアス跡地および建物については、合併後議会内の混乱の要因でありました。特に建物内にあるアスベスト除去については、市はピアス社に対しすべてピアス側の責任で行うよう要請していますが、ピアス側は費用の半分を負担するとの主張で、平行線のまま現在に至っています。

そこで市は、まずアスベスト除去費がいくらかかるのかをはじき出す必要があるということで、昨年専門会社に委託して調査したところ6048万5千円という額が出されました。また、同地には化粧品製造過程で出た廃棄物を投棄した疑いがあるため、これまで市では3回にわたり調査を行ってきていますが、今回は念を入れて将来に不安を残さないためとして、再度土壌調査を行うことになりました。費用は265万円で、これまで調査した以外の部分を15箇所掘削し、土壌分析が行われます。

#### △西鉄柳川駅の西口と新たに開設される東口の間に自由通路がつくられることとなります

現在、駅東側で区画整理事業が行われていますが、それに併せ柳川駅の東口が作られる予定で、その通路と改札口の設置場所について西鉄側と協議されていました。その構造によって建設費に大きく影響するため協議が難航していたようですが、このたび話がまとまったようです。

駅の東西を自由に行き来できる通路で結び、その通路に改札口を設けることになるようです。

#### ○ルネサスセミコンダクタ(旧NEC)柳川工場の跡地への進出企業が決まりました

平成21年10月、ルネサスセミコンダクタ(旧NEC)が平成23年9月に工場を閉鎖することが発表されました。昭和54年の創業以来、地元住民の雇用、柳川市へも数千万円に上る固定資産税など大きな貢献をしていただけたに、柳川市および地元経済界、300名にも及ぶ地元従業員の皆さんなど多方面に大きなショックを与えました。

その後、新たな進出企業が待ち望まれていたのですが、今回、地元柳川の企業が同地を新工場として買収移転することになりました。

その企業とは、昭代地区にある「株式会社ファインテック」という企業ですが、創業昭和60年、従業員147名、売上高7億1700万円で、業務内容は精密金型部品、精密刃物、セラミック加工ということです。

従業員147名の企業にしては、入居する工場跡は大きすぎるような気がしますが、このファインテックという会社、電子部品の半導体などを製造する過程で使用する精密刃物の分野では世界シェアの3割から4割を占めているとのこと。そして、10年後の目標として従業員1000名、売り上げ100億円を目指しており、今後の業

務拡大を見据えた移転だということです。

### ○市内のスポーツ施設が改修されます

金子市長は、総合運動公園をマニフェストに掲げ建設に意欲的でしたが、議会内では反対論が多数を占め、市民アンケートでも「新たに作る必要はない、既存の施設を改修して充実してほしい」の声が過半数以上でありました。したがって、昨年金子市長は総合運動公園建設を白紙撤回するとしたわけです。

そこで今回、議会や市民の声を受けて老朽化した施設の改修や多様化するニーズに応えられるよう、平成 24 年度から 3 年間で改修を行う計画を作成しました。事業費は、4 億円程度かかる見込みで、財源はスポーツくじ助成金などを最大限活用したいとしています。

施設種類	施設名	整備内容
グラウンド・野球場	柳川市民グラウンド	土砂入替など、トイレ改修
	大和グラウンド	フェンス改修、土砂入替、防球ネット設置
	三橋グラウンド	グラウンド整備、トレイ改修
	むつごろうランド野球場	防球ネット嵩上げ
	有明総合グラウンド	トレイ改修、フェンス整備
テニスコート	柳川市民テニスコート	人工芝化
	大和テニスコート	〃
	三橋テニスコート	人工芝張替え
体育館	柳川市民体育館	温水シャワー、防護ネット設置
	大和 B&G 海洋センター	温水シャワー、防護ネット設置、屋根塗装
	三橋体育センター	温水シャワー、防護ネット、排煙窓修繕
公園・その他	浜武地区漁村広場	グラウンド整地、トイレ・駐車場整備
学校施設	中島小学校	グラウンド夜間照明設置
	大和小学校	〃
	矢ヶ部小学校	〃
	藤吉小学校	〃

### 市民栄誉賞

大相撲 9 月場所において 12 勝をあげ、9 月 28 日に正式に大関に昇進した琴奨菊関は、柳川に大きな喜びと感動を与えてくれました。

柳川のみならず、暗くマイナスの話題の多い昨今、なでしこジャパンにつづいて明るい話題を日本中に振りまいてくれました。同時に久方ぶりの日本人大関誕生は、不祥事が続いた角界にとっても明るい材料となったことでしょう。

この琴奨菊の大関昇進について、金子市長は、急遽市民栄誉賞という賞を創設し、授与することを決定いたしました。近代相撲となってからは、柳川から初の大関誕生であります。横綱土俵入りの雲龍型の横綱雲龍の故郷からの大関誕生、市民栄誉賞贈呈について柳川市民から異論を唱える人はいないでしょう。皆が大いに褒め称え、お祝いをするべきでしょう。

しかし、この柳川市民栄誉賞なるもの、これまで規定そのものもなく初めての受賞ということになるわけですが、他の市町村では以前から市民栄誉賞を条例に位置づけて規定しているところも少なくありません。

では、どういう人たちがそういった市民栄誉賞を受賞しているのかと言うと、身近なところでは今年の 7 月の名古屋場所を最後に引退した大関魁皇が、出身地の直方市から市民栄誉賞を贈られ、県民栄誉賞まで受賞しています。魁皇と言えば、優勝 5 回、通産勝ち星 1047 勝・幕内勝ち星 879 勝（いずれも歴代 1 位）などなど輝かしい成績を収めた人気大関でした。

その他、全国各地のスポーツ選手の市民栄誉賞の贈呈状況を調べてみると、中には全国的知名度もない人たちに乱発している市もあるようですが、ほとんどが現役選手ではオリンピックメダル受賞、世界記録達成などの実績を上げた人たち、長い選手生活で貴重な記録を達成した人たちでした。

今回の琴奨菊、日本人力士のハングリー精神がなくなってきたと言われ、大型外国人力士がひしめくなかで、あの小柄な体格での大関昇進はたいしたものですが。

しかし、琴奨菊はまだまだこれからの活躍と飛躍が期待されます。幕内優勝はもとより、横綱にもなってほしいと誰もが思っているはずです。

そういう発展途上の途中であるということを忘れてはならないと思います。その将来と柳川市が贈る最高の賞ということを考えれば、この時点で市民栄誉賞受賞で良かったのでしょうか。

### **地方議員共済制度の廃止と今後の地方議会**

市議会議員をはじめ地方議員には、共済制度つまり年金制度がありましたが、今年の5月に廃止されました。

この共済制度、議員を12年間務めれば年金がもらえるというもので、掛け金は一般企業の厚生年金と同様、議員本人と市が掛け金を折半して収めていました。

今回の廃止で、今年5月時点で12年間以上の議員歴がある者はこれまでの制度同様年金を受給するか、自分の報酬から支払った掛け金の総額の80%を受け取るのか、選択することになります。12年に満たない者は、これまでの掛け金総額の80%を受け取るようになります。また、現在年金を受給している議員OBも継続して年金が支給されます。

この廃止の原因は、平成の大合併により市町村の数が3200あったものが1700へと減少したのに伴い、地方議員の数も減少し、議員の掛け金も大幅に減少したため、年金支給の財源が枯渇してしまったことによるものです。国の推し進めた平成の大合併、恐らく国は予測していたと思いますが、我々議員にとっては寝耳に水の出来事でした。

ところで、政官業の癒着や贈賄などの事件が多発し、政治家と金の問題が取りざたされて久しいわけですが、昨今、議員報酬、政務調査費などワイドショーまでこぞって批判的な論調で報じています。

柳川市の場合の議員報酬は、38万8千円で所得税・共済掛け金などを引かれて手取りで26万円前後でしたが、この共済制度の廃止で手取りは30万円前後となりました。そして、政務調査費は年間12万円です。

しかし、議員の場合、企業の役員などを除けば、国民健康保険、国民年金などの保険料は自分で支払わなくてはなりません。そして、今回の共済制度の廃止です。高額納税者や年金受給の議員はいいとして、老後の人生設計を一から考え直さなくてはならない現役世代の議員が少なくありません。

議員は、企業役員もいれば自営業、農漁業、企業や役所の退職者の年金生活者、そして議員だけのひとと様々です。自分の意思で、議員に立候補するわけですから、年齢も職業も様々です。

最近、この議員の待遇に関し、報酬を月額制から日当制にするということも出てきています。今の風潮から言えばほとんどの人が、好意的な受け取り方をしている人がおおいのではないのでしょうか。

しかし、そうならば裕福な年金生活者か、経済的に裕福な人でないと議員が務まらないと思います。それでも熱意のある人たちが一生懸命仕事をしてくれればいいわけですが、30代、40代、50代の若い世代の志と意欲のある人たちが、専業議員としてやりたいと思っても無理な話だと思います。

中には、もっと議員の質が上がるのなら議員の数を減らして、報酬を上げてもいいではないかという声も少なからずあります。

これからの地方議員制度は、日当制にしてボランティア的な議員にするのか、子育て世代でも議員報酬だけで生活できるような報酬とし、ただし兼業は禁止し、専門性と見識の高い議員・議会へと収れんさせるのか、どちらかだと思います。

いままでの前例が通用しない、国が地方が明日の・将来のあるべき姿を模索し、もがいている今日、前例踏襲主義の行政だけでは明日のまちづくりは出来ないと思います。行政を突き動かすことが出来るだけの専門性を磨き、熱意を持った議員がリードしていくべき時代であると思います。

平成23年9月29日

柳川市議会議員

佐々木創主

柳川市新外町119-2

TEL : 0944 - 74 - 1907

FAX : 0944 - 75 - 6058

e-mail:soshu.s@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/soshu/>